

南部家の たしなみ

— 詠む・描く・書く —

画像：南部利直墓「布袋図」

令和3年
6月4日
20日
6月21日
会場 / もりおか歴史文化館
2階企画展示室

開館時間 / 午前9時～午後7時
(* 入場受付は午後6時30分まで)
観覧料 / 一般300円、
高校生200円、
小・中学生100円、
団体(20人以上)は各2割引

* 盛岡市内在住で65歳以上の方、
小・中学生のうち盛岡市在住・就学の方は無料
* 障がいをお持ちの方やその介護をされる方
(障がい者1人につき1人まで)は無料

* 会期中の休館日は、5月18日(火)、6月15日(火)

〒020-0023
岩手県盛岡市内丸一番50号
TEL019-668-2100
https://www.morieki.jp/

もりおか歴史文化館
Morioka History and Culture Museum 活性化グループ



伝南部政行拝領「麒麟文硯 銘 松風」



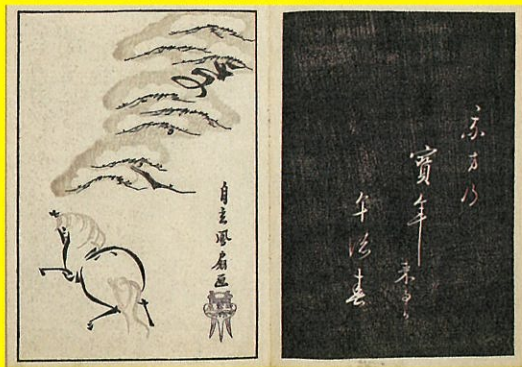
「盛岡八景」より岩鷲暮雪(歌 南部利視・南部利雄ら)



南部利敬書「峨眉山月歌」



南部郁子書「鶴亀」



南部利謹著「末広利」

関連企画

ギャラリートーク(展示資料解説)

公式YouTubeチャンネルにて展示解説動画(オンラインギャラリートーク)を公開します。

*この他にも関連企画を開催する予定ですので、詳細は当館ホームページをご覧ください。

もりおか歴史文化館公式YouTubeチャンネル

令和2年より動画配信サイトYouTubeに公式チャンネルを開設しました。企画展のギャラリートークをはじめ、もりおか歴史文化館の魅力を発信してまいりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/channel/UCN1wNorMvWRYHT8hkIMDf3Q>



主催/もりおか歴史文化館 後援/盛岡商工会議所、中津川流域文化施設連盟「NACA」、岩手日報社、読売新聞盛岡支局、朝日新聞盛岡総局、毎日新聞盛岡支局、産経新聞盛岡支局、日本経済新聞社盛岡支局、河北新報社、盛岡タイムス社、岩手日日新聞社、デーリー東北新聞社、時事通信社盛岡支局、共同通信社盛岡支局、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、岩手ケーブルテレビジョン、ラヂオもりおか、情報紙ゆうゆう

ご来館の皆様へご協力をお願い

- 発熱や咳、体調不良の方はご来館をお控えください。
- マスクの着用をお願いいたします。
- ご来館の際は受付スタッフの指示にしたがってください。



〒020-0023
岩手県盛岡市内丸1番50号
Tel.019-681-2100
<https://www.morieki.jp/>



もりおか歴史文化館
Morioka History and Culture Museum 活性化グループ

江戸時代末期の盛岡藩の記録にこのような記事があります。

諸御稽古御定日

- 二七 御兵学
- 五十 御経学御輪講
- 四九 御射術
- 六ノ日 別段御兵学
- 三ノ日 御謡曲
- 八ノ日 御茶事

これらは、盛岡藩主やその子ども達が行う稽古日と稽古内容を定めたもので、毎月2日と7日は兵学、5日と10日は経学、4日と9日は射術、6・16・26日は特別の兵学、3・13・23日は謡曲、8・18・28日は茶道を稽古するとされています。その他にも、馬術、書画、能なども稽古していたことが他の記録に見られます。こうしてみると毎日何かしらの稽古しており、現代の子ども達が学校以外に塾通いや習い事に忙しくしているのと何ら変わりないように感じられます。

なぜ、彼らはこんなにも学問や芸事

南部家のたしなみ

— 詠む・描く・書く —

を学んだのでしようか。時間やお金にゆとりのある人が趣味としてする素人芸などを「大名芸」や「殿様芸」と表現することがありますが、彼らは趣味としてこれほど様々な学問や芸事を学んでいたのでしょうか。大名は教養として学問や芸事をたしなんだと言われているのですが、なぜ学び、何を求めて学んでいたのか判断としないことが多いように思われます。

本展は、彼らが稽古した様々な学問や芸事の一つ一つを見直すことで、なぜ学び、稽古することで何を得ようとしていたのかを探ろうとする展示です。今回は、盛岡藩主や南部家の人々が詠んだ和歌や漢詩、描いた絵画や記した書を取り上げます。これらは南部家の歴史を物語る資料として紹介されることが多かったのですが、作品が作られた背景や意図、込められた思いを読み解き、江戸時代の南部家の学びについて見つめなおします。